

研究・調査報告書

報告書番号	担当
3 5 8	滋賀医科大学福祉保健医学講座
題名 (原題/訳)	
<p>A longitudinal study of the relationship between depressive symptoms and alcohol use in a sample of inner-city black youth 都市に住む黒人若年者におけるうつ症状と飲酒の関係に関する縦断研究</p>	
執筆者	
Repetto PB, Zimmerman MA, Caldwell CH	
掲載誌 (番号又は発行年月日)	
J Stud Alcohol 2004; 65:169-78.	
キーワード	
うつ症状、アルコール、黒人、縦断研究	
要 旨	
<p>若年黒人におけるうつ症状とアルコール摂取状況との関連を前向き調査で検討することを目的とした。追跡調査対象は、458名の米国黒人高校生男女である。高校時代に3年間および、尾その後の3年間の成人に至るまで、毎年インタビューがなされた。うつ症状は年齢の増加と共に軽減していたが、アルコール摂取量は増加していた。また、黒人高校生はうつ症状を克服するためにアルコールを使用しており、その傾向は男子で特に明らかであることが分かった。飲酒量の変化はうつ症状の変化を予測できなかったが、成人への移行と関連した出来事、たとえば大学入学などは、うつ症状の変化とアルコール量の変化を予測できた。</p> <p>本研究は、うつ症状は黒人青年男女の飲酒量と関連し、また、成人期への移行と関連した人生途上の出来事が、そのアルコール量の変化と関連していることを明らかにした。</p>	